



「香椎保育所」さくら組の子ども絵「わじろひがたの元気なカニ」

ご案内

第21期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 「自然観察会、初心に返って！」

和白干潟には全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、クロマツ林や雑木林、淡水湿地など干潟本来の自然の景観が残っています。また、東アジアの渡り鳥の渡りルート上にある重要な湿地です。和白干潟を守る会では、博多湾に残された和白干潟の大切さを観察会を通して伝えています。和白干潟の観察会で案内するガイドを育成するための講習会を開催しています。自然を体験して学習します。参加をお待ちしています。（初心者歓迎）

とき：6月3日（日）受付12:30 開始13:00～17:00 雨天決行
中潮 満潮11:48 干潮18:33

集合：和白干潟を守る会事務所（福岡市東区和白1-14-37 海のきりえ館1階）

講師：堀 謙治 氏（公財）日本自然保護協会 自然観察指導員

参加費：300円 募集：20名

持ち物：筆記具、ルーペ、飲み物、（あれば）双眼鏡

服装：長靴、帽子、長そで、長ズボン、（雨具）

主催：和白干潟を守る会

問い合わせ：TEL: 090-8412-2663（山之内）



2018年度 和白干潟を守る会 総会報告 (高田 将文)

主な役員と事務局組織

事務局組織と内容は下図の通りです

2月24日に、2018年度の総会が開催されました。参加者は19名。山本代表が「和白干潟を守る会は今年で30年目を迎えます。『博多湾・和白干潟のラムサール条約登録を求める請願書』は、皆で集めた署名を添えて3月に福岡市議会議長に提出しました。8月には請願審査があり継続審査になりましたが、今後もラムサール条約登録に向けて活動を続けていきましょう。和白干潟がぜひ『ラムサール条約登録湿地』となるように希望を持ってがんばりましょう！引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！」と開会挨拶をおこないました。

| | |
|----------|-----------|
| 会鳥 ミヤコドリ | 観察会 |
| 代表 山本廣子 | クリーン作戦 |
| | 干潟まつり |
| 事務局 | HP編集・通信 |
| 事務局長 | 調査、写真 |
| 今村恵美子 | 記録、会計 |
| 事務局員 | 名簿・通信配布管理 |
| 山之内芳晴 | 助成金、監事 |
| 会計 | 保全のつどい |
| 田辺 スミ子 | 山・川・海流域連携 |
| 有江 圭子 | 資料点検 |



2018年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。
3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

2017年度決算と2018年度予算



(単位：万円)

2017年度決算

当期収入は247万円で、主な収入は会費35万円、寄付金107万円、助成金等86万円と事業収入が17万円です。当期は企業や個人から寄付金を頂きました。支出は289万円で、主な事業支出は通信・リーフレット発行、観察会、干潟まつりです。収支は42万円の赤字で、次年度への繰越は340万円となりました。

2018年度予算

当期収入は246万円を見込み、支出は312万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大事に使っていきます。

| | 2017年度 決算 | 2018年度 予算 |
|-------|--------------|--------------|
| 当期収入 | 247 | 246 |
| 当期支出 | 289 | 312 |
| 収支差額 | 42 | 66 |
| 前期繰越金 | 383 | 340 |
| 次期繰越金 | 340 | 274 |

和白干潟を守る会の活動を紹介します！ (山之内 芳晴)

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

干潟で自然の大切さを伝える活動（観察会や干潟まつり）

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は14回行いました。また、和白小学校では年間計画の中で継続して「和白干潟自然観察」を行い、2月にははまよりの発表会がありました。このほか、昨年11月には29回目の「和白干潟まつり」を開催し、約400名の参加がありました。



和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口までの範囲を主体に、企業や学生を含む一般の参加者と共に清掃し、清掃後には自然観察も実施します。昨年は定例のクリーン作戦のほかに臨時の清掃を加えると、年間17回行い、延べ1,036名が参加、2,043袋のゴミを回収しました。



和白干潟周辺の自然の調査

環境省、バードリサーチ、クリーンアップ全国事務局（JEAN）などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。（鳥9回、漂着ゴミ1回）



和白干潟の水質調査と砂質調査の結果（毎月実施）

下の表は2017年10月から2018年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査については12月、1月とCODが4を示す月が現れたほか、透視度も良くなっています。砂質調査については、昨秋はアオサの大量発生が少なかったことで例年に比べると少し良くなっています。（表層酸化層が厚いほど砂質が良い）

水質調査結果（2017年10月～2018年3月）

| 測定項目 | 単位 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------------------|------|-------|------|------|-------|-------|-------|
| リン酸イオン (PO ₄) | mg/l | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 | 0.02 |
| 化学的酸素要求量 (COD) | mg/l | 5 | 5 | 4 | 4 | 5 | 5 |
| 亜硝酸 (NO ₂) | mg/l | 0.005 | 0.01 | 0.02 | 0.005 | 0.005 | 0.005 |
| 透視度 | cm | 100 | 85 | 46 | 100 | 100 | 95 |

砂質調査結果（2017年10月～2018年3月）

| 測定項目 | 単位 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------------|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 10㍻地点 表層酸化層の厚さ | mm | 2 | 3 | 11 | 14 | 12 | 4 |
| 還元層の黒色度 | - | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 |
| 150㍻地点 表層酸化層の厚さ | mm | 10 | 9 | 21 | 31 | 41 | 31 |
| 還元層の黒色度 | - | 12 | 12 | 13 | 12 | 13 | 12 |



山・川・海の流域会議

立花山や三日月山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域全体を保全する目的で2012年7月に発足。立花山から和白干潟までの6団体で構成されています。2ヶ月に1回定例会議を開き、2017年6月には唐原川お掃除し隊、10月に立花山観察会、今年の1月には立花山グリーンガイドの会の磯野文雄氏を講師として「活動としての自然保護」についての学習会をしました。

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

1 / 25 「あいおいニッセイ同和損保KK.」様より 寄付金を頂きました。
3 / 20 「(公財)イオン環境財団」様より 助成金を頂きました。



ハマウド

セリ科。海岸に生える大型の多年草。茎は暗紫色を帯び草丈は1～2mで、太さは5cmになるものもあります。和白干潟の沿岸ではアシ原の中道や海の広場一帯、五丁川護岸、奈多海岸、雁ノ巣海岸などで見られ、年ごとに増えているように感じます。巨大になるので南方の植物かと思い調べましたら、在来種だそうです。国内でも本州(関東以西)、四国、九州、沖縄にあるそうです。冬期のアシ原の植物が冬枯れの時に、いち早く12月頃から芽を出して、寒い間にもどんどん大きくなり緑色の茎や葉を伸ばし、分布を広げています。ハマダイコンなど早春に伸びる植物は生息域を奪われていくようです。葉はギザギザで、4月頃からは花の茎が伸びててっぺんにもりもりとした白い小花がつきます。毒があり食べられないそうです。



ハマウド

ツボミガイ

ユキノカサガイ科。大きなもので殻高9mm、殻径8mm、殻長10mm。ウミニナなどの殻表に付着して、縦方向に成長した笠貝だそうです。岩場にいるヒメコザラガイと同種(一生態型)とされているそうです。色々不思議な生き物がいるものですねえ。観察会では、ウミニナについての小さなツボミガイを子どもたちに見せると、「可愛い!」と覚えてくれます。ウミニナとツボミガイの生態的關係は明らかではないそうですが、興味を持って調べる人があるといいなと思います。ツボミガイ(ウミニナの上の貝)です。花のつぼみの連想から名前がついたそうです。



ツボミガイ(ウミニナの上の貝)

オバシギ

シギ科。全長27cm。旅鳥で、春と秋に和白干潟に立ち寄っていきます。夏羽では肩羽が赤褐色で、胸には黒斑が密にあり黒い帯のように見えます。数羽から数十羽の群れで行動します。貝、ゴカイ、甲殻類も食べるそうです。小さな声で「ケッ、ケッ」と鳴くそうですが、まだ聞いたことがありません。オバシギの群れの中に赤橙色のコオバシギが混じっていることもあります。和白干潟での滞在期間は短く10日間くらいしか見られません。漢字では尾羽鷗や姥鷗と書くそうです。すばしこく動く鳥に姥は似合わないと思います。



オバシギ

春の和白干潟のしぜん

アシ原: ハマダイコン、ハマエンドウ、ハマウド、ハマヒルガオなどが咲きます。ハマニンニクの穂が出て、アシ、ハママツナ、ホソバノハマアカザ、ホコガタアカザなどの新芽が伸びます。ウグイスが上手に鳴きます。

干潟: 4～5月は潮干狩りの最盛期です。干潟ではコメツキガニ、マメコブシガニ、オサガニ、ミズクラゲ、ウミニナ、アサリ、オキシジミなどが見られます。アシ原付近にはアシハラガニ、クロベンケイガニなどがたくさん出てきます。干潟の生き物たちが活発に動き出す春の干潟は生命の息吹を感じます。

水鳥: 旅鳥のオオソリハシシギ、ハウロクシギ、オバシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、メダイチドリなどが立ち寄ります。夏鳥のコアジサシ、オオヨシキリなどが渡ってきます。クロツラヘラサギやミヤコドリは4月中旬頃まで見られます。ミヤコドリは今春は過去最高の28羽が見られました。



ハマエンドウ

2017年度日本自然保護大賞「保護実践部門」受賞

3月31日東京での授賞式と記念シンポジウムには守る会の山本代表と関東在住会員3名が参加しました。約100名の参加でした。この賞は日本自然保護協会が2014年に創設した賞です。和白干潟で30年にわたり自然観察会・クリーン作戦・鳥類等の調査・広報普及活動を行ってきた実績が評価されました。授賞式では、山本代表と田中が賞状と楯を受け取りました。午後の記念シンポジウムで、各受賞団体・個人が約15分ずつ活動の紹介を行い、守る会は山本代表がパワーポイントを使い、活動中の写真を見せつつ、守る会の様々な活動について説明しました。質疑応答では、和白干潟はなぜラムサール条約登録湿地にならないのか、また何か協力できることはないか、といった質問がなされました。(田中浩朗)



JAWAN(日本湿地ネットワーク)総会とシンポジウム開催



3月31日千葉県船橋市で総会がありました。山本代表は引き続きJAWANの運営委員を務めます。その後シンポジウム「日本の湿地を守ろう2018」がありました。約60名の参加、守る会からは2名が参加しました。高田雅之さんの「湿地の恵みを考える」と、山本茂雄さんの「日本に出回るアサリと潮干狩りをめぐる実情」の講演があり、続いて「仙台市・蒲生干潟と防潮堤」、「辺野古新基地建設は進んでいない」、「三番瀬の過去・現在・未来」などの発表がありました。最後に「各地の報告」として和白干潟を守る会も「大切な和白干潟の自然を、未来の子どもたちに残そう！」と題して、活動の歩みと干潟の現状や問題点を私が発表しました。(中野悠紀子)

和白干潟の自然の写真展開催

2月1日から3月30日まで、西日本シティ銀行和白支店ロビーで、写真展が開催されました。和白支店から毎月和白干潟のクリーン作戦に複数の方々ボランティアで参加されており、支店からの要請で写真展開催となりました。このような絆ができてきたことは大変うれしいことでした。(今村)



山・川・海の流域会議 新春講演会「活動としての自然保護」



1月13日(土)立花山グリーンガイドの会の磯野文雄氏(日本山岳会、森林保全巡視員)を講師にお迎えし、山を中心にした自然保護について基礎から分かりやすくご講義頂きました。自然保護の定義や仕組み、法律などの詳しいお話がありました。また、立花山グリーンガイドの会の活動状況や、山のトイレや清掃登山などの興味深いお話を聞かせて頂きました。山・川・海の流域会議の活動意義にも触れられ、メンバーがこれまでに経験してきたことを活かしながら自然を守り、互いに学び合い、生態系全体を保全することの大切さを改めて強く感じました。(松田)

香椎公民館ふれあいサロンで「みんなで守ろう！身近な自然を」講演

3月6日(火)61名出席され、山本代表の第2回目の講演も大好評でした。「和白干潟の紹介」と「立花山・唐原川・和白干潟の保全活動」を解りやすくマジックで面白く紹介。スライドで和白干潟の自然、保全の経緯、和白干潟を守る会の活動などを話しました。今年で30年になることなどを話すと、皆さんに褒めてもらいました。山本さんの絵本の著者自身の読み聞かせは大変喜ばれました。香椎保育所の先生5名も参加されていました。和白干潟の大切さを伝えることができ、良かったと思います。(河上)



気が付いたらあなたも電話してください！

- ▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局維持課)
- ▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7153 (港湾空港局環境対策課)



弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611
092-643-3367

** お 願 い **

- 干潟でのゴルフの練習やラジコン・ドローン等を飛ばすことはやめましょう！とても危険です。
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)
福岡県環境部自然環境課野生生物係

2017年12月

- 12/2 (土) 和白干潟通信125号編集会議
- 12/3 (日) 精華女子短大2年生の和白干潟観察会
2017年冬期シギ・チドリ調査1回目(今津)
- 12/5 (火) 守る会30年誌作成会議
- 12/9 (土) バードウォッチング in 和白干潟2017参加
- 12/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 12/11 (月) ちどり保育園くじら組の和白干潟観察会
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 12/16 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 12/19 (火) 2017年冬期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 12/23 (土) 和白干潟通信125号編集会議



きりえ「ハマナデシコ咲く和白干潟」

ご案内

くすだひろこ きりえ展

・°大好き!和白干潟・°
日時:5月1日(火)~5月31日(木)

11:30~15:00, 17:30~20:30

会場:レストラン「花もも」(日祝休)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL:092-673-0563

きりえはがき13集発行記念

ご高覧をお願いします

2018年1月

- 1/7 (日) 2017年冬期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 1/11 (木) イオン黄色いレシートキャンペーン
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 1/13 (土) 山・川・海の流域会議・新春講演会「活動としての自然保護」参加
- 1/14 (日) 和白海岸探鳥会/2017年冬期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)/和白海域水鳥調査
- 1/16 (火) 和白干潟通信125号発送会
- 1/18 (木) エクセレントNPO大賞表彰式出席(東京都千代田区「毎日ホール」)
- 1/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 1/29 (月) 和白小学校4年生の和白干潟観察会

2018年2月

- 2/4 (日) 2017年冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 2/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)/イオン黄色いレシートキャンペーン
- 2/13 (火) 2017年冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 2/17 (土) 和白小学校4年生の和白干潟観察会まとめの発表会
- 2/24 (土) 総会・臨時定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 2/27 (火) 守る会30年誌作成会議



きりえ「ハマゴウの花とトウネン」

干潟のつぶやき「和白干潟がきれいになってる！」

和白干潟では1990年から、和白干潟を守る会による海水の水質調査が行われています。窒素やリンの値は年々改善していましたが、水の汚れ具合を表す化学的酸素要求量(COD)については、1990年代は“5”を下回ることがありましたが、2000年以降は恒常的に“5”を上回っていました。ところが2017年はCODが“4”を示した月が5回もありました。思い起こしてみれば、以前は浜辺にアオサが数十センチも堆積することがありましたが、近年はアオサの大量発生が度合いが幾分少なくなっています。福岡市の人口が毎年2~3万人増加している中で、和白干潟の水は少きれいになっているようなのです。下水処理場の浄化能力が向上したのか、毎年人々により行われているアオサの回収活動の効果かどうかは判りませんが、一旦悪化した水質が改善するのは画期的なことです。もっともっと干潟の生きものたちに優しい和白干潟にしてほしいですね。(山之内)



水質調査

観察会報告（2017年12月～2018年2月）（今村 恵美子）

12/11(月)ちどり保育園くじら組(年長児)32名と先生3名の観察会



担任の先生の「干潟の探検隊出発！」という掛け声で各自スコップを持ち、勇んで干潟に入って行きました。フレリトゲアメフラシをたくさん見つけ、バケツに入れ、砂地に鳥の足跡を見つけると大喜び、足跡の種類の違いもわかりました。唐の原川河口側の方向にもカモが「おしくらまんじゅう状態」で浮かんでいるのが見え、子どもたちは何度も望遠鏡をのぞき、「おーすごい。いっぱいいる」と言っていました。寒さも何のその、子どもたちには楽しい干潟だったようで、心配していた担当者一同ほっとしました。（有江）

1/29(月)和白小学校4年生124名と先生4名の観察会

寒い中でしたが、学校から歩いて来て暑くなりジャンパーを脱いでいる子もいて、観察会が始まる前に促され、やっとジャンパーを着ていました。海に向かって右手の方にミヤコドリが固まっていた。望遠鏡を覗いて「20羽ぐらいいるよ」と子どもたちも確認していました。アシ原の方へ向かい、センダンの葉痕を見ました。マサキなどの木の実やアシの穂など、冬の植物も観察しました。海の方に抜けると、唐の原川河口にシギやチドリがいるのを望遠鏡で見ました。海の広場でまとめをしました。6月の観察会でカニをたくさん見たりしていたので、季節の変化がよくわかったようです。「人工島が出来て和白干潟はどうなったのですか」という質問も出ました。（有江）



2/17(土)和白小学校観察会まとめの発表会と授業



「和白小学校自然観察会年間計画」に基づき、今年の6月と今年1月の観察会を踏まえてのまとめの発表会と授業がありました。初めに音楽室で約40分、山本さんがパワーポイントで和白干潟について振り返り、鳥やカニなどの写真を見ながら名前を確認しました。その後各教室で発表会があり、守る会も見学しました。「うまくできるか心配だったが、ここまでみんなと出来て嬉しかった」「昨日の夜まで頑張った。（見ている人から）拍手をもらえて嬉しかった」という感想が聞かれました。1年間を通しての観察会とまとめの発表・授業をきっかけに、子どもたちがこれからも和白干潟に関心を持ち続け、自分たちが和白干潟をどうやって守っていくかを考えていってほしいと思いつつ、私たちは帰途につきました。（有江）

12/9(土)「バードウォッチングin和白干潟2017」(和白干潟保全のつどい主催)

気温は低いものの、和白干潟は風も無く穏やかでした。鳥たちも砂州や沖合、周辺海域にもたくさんいました。参加者は39名、子ども中心の若いファミリー層や年配のご夫婦連れなどがあり、市民の皆さんの関心の高さを感じました。初めてバードウォッチングに来たという人も多く、解説は守る会のメンバーが張り切って丁寧に行い、参加者から歓声が上がっていました。観察できた鳥を当てるビンゴゲームでは、ミヤコドリはじめクロツラヘラサギ、ツクシガモなど27種類でした。「ミサゴがかっこよかった」「初めて和白干潟に来て、鳥たちが多いというのは聞いていたが、こんなに種類が多いのかと驚いた。」「雁ノ巣に住んでいるが和白干潟がどこにあるかわからなかった。初めて鳥を一羽一羽見た」などの感想がありました。最後にビンゴの景品の和白干潟の動物下敷きをもらい、皆さん大満足の様子でした（今村）。



< お詫び >

和白干潟通信215号の1面、発行日に間違いがありました。「2017年を2018年」に訂正し、お詫びいたします。大変申し訳ありませんでした。

守る会問い合わせ窓口

ホームページ：<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

| | | |
|----------------|--------|----------------------|
| 入会 / 観察会（申込等） | 山之内 芳晴 | Tel 090-8412-2663 |
| クリーン作戦 | 田辺 スミ子 | Tel 090-1346-0460 |
| 広報 / 調査 / 定例会議 | 山本 廣子 | Tel/Fax.092-606-0012 |
| 干潟まつり | 今村 恵美子 | Tel/Fax.092-942-5282 |



クロツラヘラサギとヘラサギ

お知らせコーナー

和白干潟を守る会30周年・日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム 《未来につなごう和白干潟》

- と き：6月24日(日) 14時~16時
- と ころ：なみきスクエア 視聴覚室(福岡市東区千早) JR千早駅・西鉄千早駅前
Tel 092-674-3981 (東市民センター)
- 主催：和白干潟を守る会 共催：(公財)日本自然保護協会
- 参加無料(先着75名) ●懇親会(16時~16時40分) 会費500円
- ★問合せ：Tel 090-3413-6443 (今村)



和白干潟のクリーン作戦と自然観察のおさそい

- 4月28日(土) 15時~17時 「干潟・湿地を守る日2018」参加
「全国春のビーチクリーンアップ2018」参加企画
- 6月10日(日) (受付:9時) 9時半~11時半 「ラブアースクリーンアップ」参加
- 集合：和白干潟 海の広場(東区和白4丁目海岸) 小雨決行 ★問合せ：Tel 090-1346-0460(田辺)

定例スケジュール

- 定例会議(4/28, 5/26, 6/23)
毎月第4土曜日 10時半~13時 守る会事務所にて開催。
以下は参加自由です! 仲間が待っています!
- クリーン作戦と自然観察
(4/28, 5/26, 6/23)
毎月第4土曜日 15時~17時 和白干潟・海の広場集合
※長靴があると便利。駐車場なし。
- 和白海岸探鳥会(5/13, 6/10, 7/8)
主催：日本野鳥の会 福岡支部
毎月第2日曜日 9時~12時 JR 和白駅前の和白公園集合
参加費：一般300円 野鳥の会会員100円



★会員募集中!
年会費 個人 2,000円/団体 5,000円
★カンパの協力お願い
郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

★ボランティアへのお誘い★
和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い
(車の運転、記録)、パソコンを使った
資料作成、観察会のお手伝い(写真撮影)
等です。参加をお待ちしています!

和白干潟の鳥たち(その82) 大反嘴鷗 [全長39cm] オオソリハシシギ (チドリ目 シギ科 / Bar-tailed Godwit)



(写真撮影：三宅 僚)

オオソリハシシギは旅鳥として春と秋に和白干潟を訪れています。「大反嘴鷗」は反った嘴(くちばし)の大きな鷗(シギ)の意味で、名前の通りの恰好をしています。春には特に頭から胸が赤橙色で、とても美しい鳥です。20年前には春の雁ノ巣海岸で30羽並んだオオソリハシシギの群れを見ましたが、現在では3羽程の小群で和白干潟を訪れています。全国的には1,000羽~2,000羽のオオソリハシシギが立ち寄っているそうです。東南アジアやオーストラリアなどからシベリアまでの長い旅の途中で羽休めをして、ゴカイや貝、甲殻類などを食べています。くちばしを穴に差し込んで、顔を海水や干潟まで突っ込んで探す様子が見られます。3羽で来た時には、3羽が並んで仲良くいっしょに餌をとる姿が可愛いです。和白干潟にいつまでも来てほしいですね。(山本 廣子)

【編集】今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子



《カット》「香椎保育所」の子どもたち・くすだひろこ

★次号は2018年7月に発行予定★



【編集後記】春の和白干潟では色々な草花も芽吹き、後背林も色とりどりのにぎやかな装いに生まれ変わります。特にハマダイコンの花、アシ原中道にはハマニンニクの穂が大きく伸び、アシの緑も一段と濃くなります。また干潟の生きもの達も干潟中で活発になります。元気な和白干潟を感じに来ませんか?(田辺)